

P2-041

特別支援学校において医療的ケアの実施
に対する教員の抱える不安佐野 瑞季¹、宮崎 つた子²¹独立行政法人 国立病院機構 三重病院²三重県立看護大学

【目的】

現在、医療的ケアを必要とする子どもの多くは、特別支援学校に通学している。平成24年度の制度改正により、教育現場において一定の条件下で教員が医療的ケアを実施できるようになった。しかし、医療的ケア実施への不安を抱えている教員は多い。本研究では特別支援学校において医療的ケアの実施に対する教員の抱える不安要因を明らかにすることを目的とする。

【方法】

平成29年7月～8月において、特別支援学校で働く教員を対象に無記名自記式のアンケート調査を実施した。調査内容は、対象者の背景、研修受講状況、医療的ケア、多職種連携に関する質問および自由記載欄にて構成し、学校における医療的ケア（特定行為）の内容に関しては、文部科学省の資料を参考に作成した。倫理的配慮として、対象者には調査の目的や方法等書面に明記して配布し、回収をもって研究への参加の同意とした。なお本研究はA大学研究倫理審査会の承認を得て実施した。

【結果】

医療的ケアを実施できる職員52名のうち46名からの回答が得られた（回収率88.5%）。対象者の属性は、初等部教員14名（31.1%）、中等部教員12名（26.7%）、高等部教員17名（37.8%）であった。研修は43名（95.6%）の教員が受講していた。医療的ケアの実施に対して教員は不安を抱いているとの回答が多く、所属別では高等部の教員が一番高かった。自由記載に記載されている不安要因は、緊急時における実施、医療的ケアを実施したにもかかわらず状態の改善がみられない場合等児童生徒の様子がいつもと違う際の実施、生命に直結するケアの実施、実施経験が少ない状況での実施であると明らかになった。

【考察】

結果より、不安要因として上記の4つが明らかとなった。これらの不安要因を軽減させるためには、教員への十分な知識の提供、教員のニーズに合った研修が必要であると思われる。児童生徒の疾患の状態の変化、医療的ケア実施後に起こり得る状況についての情報提供、緊急時における対応に関する研修や、十分な医療的ケアの実施練習の機会の確保が必要であると考えられる。また研修以外にも、児童生徒に関わる職種の情報共有の必要性が示唆された。

P2-042

特別支援学校における医療的ケアの支援
システム作り（第2報）－A校における看護
師、教諭、養護教諭の変化－山本 陽子¹、二宮 啓子¹、勝田 仁美²、丸山 有希³、
岡永 真由美¹、萩岡 あかね¹、内 正子³、
熊谷 智子⁴¹神戸市看護大学²兵庫県立大学看護学部³神戸女子大学看護学部⁴元神戸市立友生支援学校

【目的】

本研究では、特別支援学校で看護師を中心とする医療的ケアの支援として、1年間の学校支援プログラムを実施し、その効果を明らかにすることを目的とした。ここでは、看護師と教諭が医療的ケアを実施しているA校で実施したプログラム前後の看護師、教諭、養護教諭の認識と行動の変化について報告する。

【方法】

1. 対象：A特別支援学校の看護師・教諭・養護教諭。
2. 調査方法：プログラム前後に、1)3者に研究者作成の無記名自記式質問紙調査、2)看護師にグループインタビュー調査を実施した。
3. 介入方法：アクションリサーチの手法を参考にアクションプランを学期ごとに学校関係者と研究者で策定し、実施した。
4. 分析方法：量的データは統計学的に、質的データは質的記述的に分析した。
5. 倫理的配慮：研究代表者の所属大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

質問紙調査の回収率は、看護師（8名、100%）、教諭（27名、90%）、養護教諭（1名、100%）。学校支援プログラム前後の変化として、勤務校の医療的ケアの状況が改善した、やや改善したと評価した者は、看護師43%、教諭44%、養護教諭100%であった。

看護師：75%が自分自身への利益になり、教諭とのコミュニケーションが取りやすくなった、緊急時の個別マニュアルができ緊急時の動きがわかりやすくなったと感じていた。
教諭：定期的にケースカンファレンスの時間が確保されるようになっていた（ $p<0.05$ ）。医療的ケアにおける自分の役割に関する認識のばらつきがなくなり、役割が明確になる傾向が見られた。また、全体研修会で医療的ケアの考え方、それぞれの役割が理解でき、教諭と看護師が議論し共通理解ができて良かった、看護師とのコミュニケーションが取りやすくなった、これからは看護師との連携のスタートと感じていた。

養護教諭：全体研修後、校外学習の際に教諭と看護師の間で思いが違っていたことがあったが、教諭から希望・思いを聞き、直接看護師にそれを伝えることを促すと、双方で折り合いをつけたケースがあり、変化を感じていた。

【考察】

研究参加者の半数近くが学校における医療的ケアの改善を実感し、看護師と教諭がコミュニケーションを取りやすくなったと感じていたことから、学校支援プログラムは医療的ケアにおける考え方や各職種の役割の共通理解を促し、職種間連携を促進させると考えられる。

科研の基盤C（課題番号16K12162）を受けて実施した。